

# GAP手法を取入れたより良い農業経営を目指して

## ～GAP研修会の開催と認証取得に向けた取組支援～

### 1 活動のねらい

千葉地域では、食品安全や労働安全などに関するリスクを防ぐとともに、農業者の経営向上につながる有効な手段として、GAP（Good Agricultural Practices：農業生産工程管理）の取組を推進しています。今年度は新規就農者へのGAPの周知や、GAP認証の取得を希望する農業者に向けた、認証取得支援を中心に普及活動を行いました。

### 2 課題の背景

近年、千葉地域ではGAPに取組む農業者が徐々に増えていますが、その割合はまだ低く、GAPについて理解が進んでいないのが現状です。また、GAPは農場のリスクを把握、改善し、各農場の経営リスクを減らすという手法ですが、「記帳が面倒」、「取組自体のメリットが見えにくい」等のマイナスなイメージが先行し、正しい理解がされていないという課題がありました。そこで、次世代を担う若手農業者を対象としたGAPの研修会を実施し、理解を深めることとしました。また、GAP認証の取得や更新を目指す農業者に対し、地域のGAPモデルケースとなるよう認証に向けた支援を実施することとしました。

### 3 普及活動の経過・結果

#### （1）若手農業者に向けたGAP研修の開催

農業経営体育成セミナーでは、10月27日にGAPをテーマとした第1回合同研修を開催し、11名のセミナー生が参加しました。前半は、講義として当事務所職員から、「GAPとは農場にとってマイナスとなるリスクを減す管理手法であること」、「農場に潜むリスクを防ぎ、より良い農場を目指して欲しいこと」を説明しました。後半は管内のJGAP認証農場の視察を行いました。参加したセミナー生は、同じ農業者が実践する農薬や肥料の管理方法を見学し、より具体的なGAPの意義や手法について理解してもらうことができました。視察後の意見交換会ではセミナー生から、「GAPは難しいイメージがあったが、工夫次第では取組むことができそうだ」という声や、「まずは燃料や農薬庫の保管方法から見直したい」という前向きな意見を聞くことができました。



写真1 農薬の在庫管理方法を聞く  
セミナー生

## (2) GAP 認証の取得や更新を目指す農業者への支援

### ア JA市原市姉崎蔬菜組合 JGAP 団体認証の更新

JA市原市姉崎蔬菜組合は市原市深城地区でだいこんを生産する 14 戸で構成された組織で、年間約 110 万ケースのだいこんを出荷しています。令和元年 1 月に、JGAP 団体認証を取得し、各戸が GAP 手法を活用した経営を続けてきました。今年度は認証の更新を迎える時期であり、組織自らが、改善活動を継続して行えること目指し、個別巡回や勉強会を通して指導を行いました。個別巡回では、基準書をもとに取組内容をチェックし、是正すべき点がある場合は、改善指導を実施しました。勉強会では、だいこん生産における作業ごとのリスクを再度確認し、対策の見直しを行いました。これらの支援により、令和 3 年 12 月に更新審査を受け、JGAP 団体認証を更新することができました。



写真2 燃料の保管方法を説明する農業者（左）

### イ 個別農場での GAP 認証取得に向けた支援

管内の GAP 認証取得を希望する農業者 2 戸に対し、取得支援を行いました。まず、GAP の意義や取組目的について農業者と話し合い、目標を共有しました。その後、作業ごとのリスクの掘り起こしとその対策について話し合い、リスク評価表の作成を支援しました。また、農場において、基準書に沿った農薬や肥料の管理が実施できるよう、改善指導を行いました。その結果、2 戸の農場は、リスクに対して適切な対策が行われ、食品安全や労働災害のリスクが低い農場となりました。引き続き 2 戸に対して支援を行い、JGAP 認証取得を目指します。

## 4 今後の課題

管内では GAP に取り組む農業者が少しずつ増えており、それぞれが個々の経営に合ったリスク管理方法を工夫しながら経営を行っています。このような素晴らしい取組をより多くの農業者に広め、農業者自身が率先して食品安全や労働安全などのリスクが低い経営を目指せるよう、引き続き支援していきます。

- 5 担当者 市原グループ ◎梶浦 真衣、内藤 千陽、山下 瀬里奈、  
千葉・習志野グループ 井上 絵里加、木村 明花音、  
八千代グループ 田中 稔久、國分 拓也

- 6 協力機関 市原市、JA市原市